

「教育臨床総合研究10 2011研究」

平成22年度の基礎体験領域の取り組みについて

A Report of Approaches on “Basic Experience Area” in 2010

長 澤 郁 夫*

Ikuo NAGASAWA

福 間 敏 之*

Toshiyuki FUKUMA

境 英 俊**

Hidetoshi SAKAI

池 山 圭 吾*

Keigo IKEYAMA

山 本 幸 市*

Kouichi YAMAMOTO

要 旨

島根大学教育学部の教員養成カリキュラムである「1000時間体験学修」を実施してから7年が経過し、1000時間体験学修を修了した4期目の卒業生を送り出すことができた。

ここでは、平成22年度の「1000時間体験学修」における基礎体験領域の取り組みの概要と成果、さらには基礎体験セミナーにおける新たな試みについて報告する。

〔キーワード〕 基礎体験領域、基礎体験セミナー、成果と課題

I はじめに

「1000時間体験学修」は、1000時間に及ぶ体験学修を卒業要件として必修化した教育課程であり、「基礎体験」「学校教育体験」「臨床・カウンセリング体験」の3つの体験領域から構成されている。

基礎体験領域は、小・中学校での学習支援、学童保育、地域イベント、社会教育などの教育活動や地域活動への参加を通じて、教師に必要な資質の土台となる社会性や豊かな人間性を養うものである。さらに、子ども、地域、学校と主体的に関わり、多様な体験もとにした教育実践力を育むものである。基本的な流れは、各事業所が行う様々なプログラムの中から、興味・関心のある体験活動に参加し、体験で得た学びを4年間で積み上げていく。

さらに、基礎体験の構造化をかけた、学年に応じた活動の在り方を示している。1・2年生にはコミュニケーション力等を高める意味で地域や子どもを対象にした活動、3年生には教職に就くことを前提にして学校現場での学習支援活動、4年生にはキャリア教育として卒業後の生活を見据えた活動に参加するよう呼びかけてきた。

*島根大学教育学部附属教育支援センター専任基礎体験領域担当

**島根大学教育学部附属教育支援センター長（健康・スポーツ教育講座）

また、活動を通して身につけさせたい資質・能力として10の力（学校理解，学習者理解，教科基礎知識，学習支援の指導技術，リーダーシップ・協力，社会参加，コミュニケーション，探求力，社会の一員としての自覚，リテラシー）を設定しており，評価の具体的観点としている。各活動の事後指導や各基礎セミナーの振り返りの際には，これらの観点をもとに活動記録票の振り返りシートやアンケートに自己評価をさせ，自己認識や課題意識の深化などの自己成長を促している。

Ⅱ 基礎体験領域における取り組みの経緯と改善点

1000時間体験学修がスタートした平成16年度から平成22年度までの，7年間の基礎体験領域における取り組みの経緯と改善点を表1にまとめた。

平成22年度は，各学年の基礎セミナーでは入門期セミナーⅠも含め，Ⅳ章で後述するように実施時期や内容の一層の改善を行った。また，だんだん塾講演会では内容の充実や受講学生を増やすために臨床・カウンセリング体験領域との一部合同開催を実施した。

さらに，基礎体験活動記録票においては，評価項目をこれまでの6項目からプロフィールシートの10項目の評価項目にそろえ，事後指導の際に基礎体験マークカードに転記させることにより，体験毎の自己評価がプロフィールシートの体験領域10軸のレーダーチャートに自動的に反映され，学生の体験学習での学びがより可視化されるように工夫した。そして昨年度「教師力育成総合支援システム」としてシステム改修が行われ，今年度はその改修したシステム上で，基礎体験の登録や時間数管理や評価などが，より効率的に運用できるようになった。

表1 7年間の基礎体験領域における取り組みの経緯と改善点◎

	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
事業所との連絡協議会	－	－	○	◎改善	○	○	○
実習セメスター学外教育体験	－	－	○	○	○	○	○
ビビットひろば	－	○	○	○	○	○	○
事前・事後指導の実施	－	－	○	○	◎改善	○	○
各学年の基礎セミナー実施	－	－	○	○	◎改善	○	◎改善
だんだん塾講演会(サポート・マイスター講演会)	－	－	○	○	◎改善	○	◎改善
基礎体験活動記録票	○	○	◎改善	○	○	○	◎改善
入門期セミナーⅠ	△(試行)	○	◎改善	◎	◎	◎	◎改善
基礎体験合同説明会	－	－	○	○	○	○	○
実習セメスター説明会	－	－	○	○	○	○	◎改善
社会教育施設との意見交換会	－	－	－	－	○	－	－
学内資格認定（3資格）	－	－	－	－	○	○	○
卒業生及び就職先への聞き取り調査					△(試行)	－	－
専任教員数	2名	4名※1	4名	4名	5名※2	4名	4名

(注) ※1 1名は鳥取県から ※2 1名は特任教員

Ⅲ 平成22年度の取り組み

《末尾に資料として「平成22年度基礎体験領域における年間活動実施一覧表」を掲載》

1. 基礎体験活動

(1) 基礎体験活動への参加実績

今年度は、延べ2000名を超える学生が、島根県・鳥取県内で体験学修を行った。受入団体の年間活動募集総数も504件であり、幅広い分野から多様な体験活動が募集され、募集数も年々増加している。学生は自己基準をもとにこれらの活動を選択し参加している。

また、卒業要件とされる基礎体験470時間に対し、今年度卒業生の平均体験時間は665時間であり、平均200時間も多く基礎体験に取り組んでおり、学生自身が体験学修の有意義感を理解し、積極的に体験を積み重ねている学生が多いことがわかる。

表2 基礎体験活動への参加実績

	H19実績	H20実績	H21実績	H22実績
受入れ団体数	225	226	266	295
募集活動数	369	451	475	504
学生参加活動数	341	338	340	375
参加学生延べ数	2012	1898	1953	2397

さらに、「松江市サタデースクール」や「出雲ウイークエンドスクール」等の基礎学力向上事業での支援活動にも継続的に取り組んでいる。現場の教師や事業所塾長との連携の下に多くの学生が地域の子どもの教育実践に積極的に参加している。子どもに対する言葉かけや関わりについて体験活動を通して培い、事後指導の様子からも自己の成長が実感できているように見える。平成22年度、参加者がやや減少したのは両事業そのものの規模縮小による影響である。

表3 土曜日を利用した学力向上事業への参加実績

	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
出雲ウイークエンドスクール	25	32	40	31
松江市サタデースクール	95	105	88	64
合 計	120	137	128	95

しかし、最近の傾向として他人や社会とのコミュニケーションを取ることへの不安感等が影響してか、基礎体験活動への最初の一步を踏み出すことに抵抗感を感じている者も少なくない。そこで、最初の基礎体験のスタートがうまく切れるように、1年生の後期の開始時に「スタートアップセミナー」を今年度から新たに設けた。このセミナーでは1年生の前期で取り組んだ基礎体験活動の相互の紹介や振り返りを、6名程度のグループで行い、基礎体験活動での学びの共有化や意欲付けを図る取り組みも行った。

(2) だんだん塾（事前・事中・事後指導）

体験活動を行う際には、必ず30分ずつの事前・事後指導を行っている。活動が長期にわたる場合は事中指導を行う場合もある。事前指導においては、体験活動の概要を知らせるとともに、活動を通して何を学び、どんな力をつけたいかなどの目的を明確にさせている。また事後指導では、活動の振り返りを通して自分の成長を確認したり、他の参加者と学びの共有化を図ったりすることにより、体験学修の有意義感を持たせるように努めている。これらの指導は4名の専任教員が地域割により分担して行っている。

毎回の事前・事後指導に費やす時間は専任教員にとって多大であるが、基礎体験活動の質の向上や意欲の継続には欠かせない活動である。

(3) だんだん塾（サポート・マイスター）講演会

今年度も昨年度に続き、「コミュニケーション・スキルアップ」をテーマとし、集団の中での人間関係を築くための手立てや、自分の考えや思いを相手に正しく伝えるための話し方や、文章表現の仕方についての講演を行った。また、第3回のだんだん塾は「人間力」をテーマとする講演会とし、臨床カウンセリング体験との合同開催としたため、80名あまりの多くの学生の参加があった。



だんだん塾講演会は全学年を対象として行っており、これから教員採用試験や就職活動に向かおうとする学生にとって、「書く力」「話す力」は大変関心の高い内容であり、特に3年生の積極的な参加が今年度も目立った。

表4 だんだん塾講演会の開催実績

回数	月 日	講演者	講演テーマ
第1回	7月14日 (水)	島根県教育庁 社会教育課社会教育主事 木村真介先生	人とかかわり、人とのつながり ～集団の中での人間関係づくり～
第2回	11月25日 (水)	島根大学生涯学習 研究センター准教授 日野伸哉先生	コミュニケーションスキル向上セミナー ～グループ（集団）内での コミュニケーション～
第3回	12月15日 (水)	一畑薬師管長 飯塚大幸先生	これからの時代を生きるための人間力 とは ～ブッダの教えに学ぶ～
第4回	1月19日 (水)	山陰中央新報 論説委員 高尾雅裕先生	きちんと自己表現できる社会人になる ために！ ～「書く力」を鍛える～
第5回	2月15日 (水)	山陰放送アナウンサー 山根伸志先生	自分の考えや思いを 言葉でどう表現するか

(4) 専任教員による日常相談活動

学生からの要望で、不定期ではあるが次のような日常相談活動を行った。

- 1) 基礎体験活動における個別相談
- 2) 生活面での個別相談
- 3) 教員採用試験に向けての願書添削や面接指導, 実技指導

2. ビビットひろば

(1) 活動のねらい

ビビットひろばとは、松江市内の小学生の土曜日の居場所づくりのために活動を提供する目的で、教育支援センター主催で開催してきた基礎体験の事業である。今年で6年目を迎えた。活動の趣旨や楽しさが浸透してきており、今年も延べ528人もの多数の児童の参加があった。参加してくれた児童達に楽しんでもらおうと学生たちは活動運営に励み、活動を通して企画力、指導力、コミュニケーション力などの力を身に付けた。

また、各専攻からも学生への専攻別体験として児童向けの講座を毎回開催してもらい、専攻での学びを生かした活動を提供してもらっている。



(2) 実施時期と活動内容

前 期	実施日時・参加者数・開催講座名等
第1回	平成22年6月26日(土) 9:30～12:00 参加者数142名 開催講座【教育支援センター・英語・健康スポーツ・家政】
第2回	平成22年7月17日(土) 9:30～12:00 参加者数 79名 開催講座【教育支援センター・英語・健康スポーツ】
出張 ビビット	平成22年7月31日(土), 8月1日(日) 9:30～16:00 出雲科学館の「科学の祭典」に出展
後 期	実施日時・参加者数・実施講座名
出張 ビビット	平成22年10月17日(日) 9:30～16:00 島根県立青少年の家の「サン・レイクフェスティバル2010」に出展
第1回	平成22年10月30日(土) 9:30～12:00 参加者数89名 開催講座【教育支援センター・英語・健康スポーツ・技術】
第2回	平成22年11月20日(土) 9:30～12:00 参加者数107名 開催講座【教育支援センター・健康スポーツ・家政】
第3回	平成22年12月18日(土) 9:30～12:00 参加者数111名 開催講座【教育支援センター・英語・健康スポーツ・技術・環境寺子屋】

3. 各事業所との連携

基礎体験学修を推進していく上で、年間500件を超える多数の活動を提供して下さる事業所との連携を密にしていくことは、体験の量的充実だけではなく質の向上においても大切である。

今年度も、4月の基礎体験合同説明会と、基礎体験活動連絡会議を2回実施し、基礎体験活動の趣旨や期待する学び、募集手続き等についての共通理解を行った。また、意見交換を通して学生によりよい基礎体験活動の学びの場や環境を作るとともに、受け入れ事業所にとっても大学と連携することによるメリットのある活動のあり方や、学生募集の方法について話し合った。

(1) 第1回 基礎体験合同説明会及び基礎体験活動連絡会議

《平成22年4月21日(水)》

合同説明会 (14:30～15:30)	場 所：大学会館3F大集会室 参加者：1年生176名、29事業所 40名
連絡会議 (15:45～17:00)	場 所：大学会館3F大集会室 参加者：40事業所 50名、支援センター7名

入門期セミナーⅠを終え基礎体験活動への意欲が高まったところで、その翌週に基礎体験合同説明会を実施した。今年度も多くの受け入れ事業所が参加してくださり、今年度予定されている活動内容等について、1時間のポスターセッション方式で説明していただいた。



また、基礎体験活動連絡会議では、昨年度のアンケート結果をふまえ、1000時間体験学修のねらいである、豊かな人間性と実践的な指導力育成に向けての取り組み方針や、基礎体験活動の流れについて説明し、学生にとって有意義な体験活動にするために双方の共通理解を図った。

(2) 第2回 基礎体験活動連絡会議 《平成23年2月16日(火)》

連絡会議 (15:00～17:00)	場 所：25番教室 参加者：29事業所39名、支援センター6名
-----------------------	------------------------------------

第2回基礎体験活動連絡会議では、今年度の活動報告と学生の取り組み状況についての説明を行った。その後のグループ別会議は、主催団体別に学校関係、行政・社会教育施設、各種団体等の3グループに分けて実施した。各事業所からは、学生は意欲的に取り組んでおり、事業所の活動運営に貢献していると評価していただいた。また、学生の効果的な活用や学生の確保など、今後の取り組みに対する提案も多く出され、受け入れ先事業所同士の情報交換も図られた。

4. 実習セメスター

実習セメスターとは、3年生後期の教育実習(実習Ⅳ・Ⅴ)期間の9月から12月に実施して

いる学外での学校教育体験であり、今年度で5年目を迎えた。教育実習での附属学校園での学びと、実習セメスターでの公立の幼小中学校での体験を互いに往還させながら、学校現場での学習支援の実践的な力を学生に身に付けさせている。

実習セメスターでの受け入れ先の学校や、活動参加者は年々増加している。特に、今年度は実習セメスターのガイダンスに、受け入れ先の学校の先生や教育委員会の方をお招きし、学生向けに学校の様子や体験内容の説明をしていただいたためか、昨年度の学生の参加率が52%だったものが、今年度は77%(175名中134名参加)まで高まった。延べ参加人数も、170人が213人へと増加し、とても意欲的に取り組んでいた。



また、実習セメスター終了後も学習支援を継続している学生も少なくない。さらに、教員採用試験合格後の4年生の学生の参加もみられ、4月に教壇に立つための準備期間と捉えて目的意識を持って取り組んでいる。実習セメスター体験は、学生にとっても学校にとっても相互に有意義であると、受け入れ先から言っていたいており、学校及び幼稚園からの期待も高まっている。

表5 実習セメスター実績

	18年度		19年度		20年度		21年度		22年度	
	島根県	鳥取県	島根県	鳥取県	島根県	鳥取県	島根県	鳥取県	島根県	鳥取県
募集学校数	－	－	39	14	63	13	45	22	58	26
募集活動数	20	14	77	14	84	13	63	23	87	28
参加活動数	29	13	37	8	50	12	42	18	56	18
参加人数	126	30	107	19	141	21	127	43	174	39
全体	156		127(1)		162		170		213	

() 内は、山陰両県以外での参加人数

5. 学内資格認定制度

教育支援センターでは、「体験学修ピア・サポーター」「学校教育サポーター」「コミュニティサービス・サポーター」の3つの学内資格を設定している。今年度の認定者は延べ32名(昨年度は12名)であった。内訳は表の通りである。

表6 学内資格認定者数

資格認定者は、基礎セミナーにおいて自己の体験活動で得た学びを伝えたり、困り感のある者に個別にアドバイスをしたりする支援を行ってきた。下回生にとって先輩たちの生の声は説得力があり、自分自身の体

学内資格名	認定者数	学年別人数
体験学修ピア・サポーター	18名	3年生12名 4年生6名
学校教育サポーター	8名	3年生2名 4年生6名
コミュニティサービス・サポーター	6名	3年生3名 4年生3名

験と重ね合わせながら熱心に聞いていた。そして、学内資格の価値が学生相互においても認められるよい機会にもなっている。

Ⅳ 基礎体験セミナーにおける新たな試み

基礎体験セミナーは、基礎体験活動のリフレクションとして学年単位で行っている。体験活動から得た学びや課題を自己分析したり、体験発表や情報交換を通して他者との思いを共有したりして、次の活動への意欲化へ繋げることをねらいとしている。

昨年度の基礎体験活動に対する学生の取り組み傾向を分析してみると、取り掛かりも早く積極的に活動を継続している学生が多い半面、消極的でほとんど活動に参加していない学生も少なくない。4年生の教育体験活動への参加者が増えているが、1年生の体験活動へ意識が低く取り掛かりが遅い。他にも、学年間による活動意識の差などが挙げられる。22年度入学生からは、2年生修了時において120時間以上の基礎体験活動（選択）を行うことが、3年生で行う学校教育実習Ⅲの履修要件となっている。現況のままでは、学校教育実習Ⅲが履修できない学生がでてくる可能性も否めない状況である。

このような実態を踏まえ、現行の基礎体験セミナーの成果や学生の実態とのずれ等を分析し、すべての学生が段階的・計画的に基礎体験活動に取り組めるように計画の見直しを行った。その結果、入学後早期に基礎体験活動の価値に気付かせることをねらいとして、1年生の9月にスタートアップセミナーを新規実施することとした。また、教育体験活動に関心をもつ4年生に活動の場（実習セメスター用教育体験活動）を提供することをねらいとし、発展期セミナーを12月から9月へと実施の時期を変更した。（改定後の「平成22年度基礎体験セミナー計画」を表7に示す。）さらに、それぞれの学年の活動意欲や累積体験時間、教職志向などの実態把握に努め、より学生のニーズに応じたセミナーとなるように工夫改善を行うこととした。

表7 平成22年度基礎体験セミナー計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生	◎入門期セミナーⅠ		↔ 教育実習Ⅰ			◎スタートアップセミナー					◎基礎体験交流会	
2年生						◎充実期セミナー	↔				教育実習Ⅱ C系G系 ◎基礎体験交流会	
3年生		↔ 教育実習Ⅲ			C系G系	↔	教育実習Ⅳ	↔ 教育実習Ⅴ				
						実習セメスター		◎応用期セミナー				
4年生	↔ 教育実習Ⅵ（選択）					◎発展期セミナー						

1. 入門期セミナーⅠ（1年生対象）

日 時	平成22年 4月17日（土）～18日（日） 島根県立青少年の家（サン・レイク）
ねらい	・教育体験活動「1000時間体験学修」の全体像を把握し、4年間の大学生活の見通しを持たせるとともに、教育学部生としての自覚を促す。 ・これから学生生活を共にする同級生やサポーターとして参加する先輩との交流を深め、今後展開される教育体験活動における仲間意識を培う。

入門期セミナーⅠは、本学部の初年次教育プログラムの一つであり、入学直後の新入生を対象に1泊2日で行っている。1000時間体験学修プログラムを理解し、4年間の大学生活の見通しを持つことを主な目的としている。教育支援センター主催の活動だが、昨年度からは在學生（2・3年生）が主体的に参画している。今年度は、在學生スタッフのねらいとして、「新入生がねらいを達成するための在學生ピア・サポートの充実」を設定し、セミナー全体の企画や各研修の責任者という役割を担い、36名のスタッフが協力して運営した。また、このねらいを達成するために在學生スタッフの目標を設定し、目標の達成に向けて取り組んでいった。



《在學生スタッフの目標》

- ①1000時間体験学修の意義やシステムを再確認する場とする。
- ②「スタッフ自身が1000時間体験学修の成果である」という、手本として行動する。
- ③自分に足りない力をお互いに吸収しあい、自分自身の力をステップアップさせる。
- ④これまでの学びを整理し、新入生に接する場面を通して自分自身の成長を確認する。

セミナーを終えての新入生アンケートからは、質問①「入門期セミナーⅠは有意義な活動となったか」の平均4.8ポイント（5段階評価）をはじめ、全体的に評価が高かったことから、新入生のねらいはほぼ達成できたと思われる。感想の中には、4年間の大学生活の見通しが持てたと同時に、自分もこんな先輩に早くになりたいと思った者も多くいた。在學生スタッフの感想には「全体を見渡した積極的な言動ができた」「自分自身の変容や成長を感じた」など、基礎体験活動の成果を強く実感している内容が多くあった。学生参画による入門期セミナーⅠは、新入生にとっても、在學生にとっても学び多い貴重な体験の場となっている。今後も、在學生主体の企画を充実させていき、1000時間体験学修の成果を確認し合える活動として大切にしていきたい。

2. スタートアップセミナー（1年生対象）

日 時	平成22年 9 月28日 12：45～15：45 35番教室 他
ねらい	・入学時からの基礎体験活動の取り組みを振り返るとともに、活動参加への心構えや手続き等の再確認を行う。 ・小グループでの体験発表会を通して、体験活動で得られる多様な学びや課題を共有すると共に、今後の活動への意欲化を図る。

全体会では、各自が個人の活動時間集計票をもとに、これまでの体験活動時間数の確認を行った。その後、教育支援センター専任教員から、1年生前期の活動状況説明や、活動を登録する際の注意事項等の指導を受けた。その後の体験発表会では、「学校教育実践研究Ⅰ」のクラスに分かれ、現在までに行ってきた基礎体験活動を通して得た学びや課題を発表し合った。他者の取り組みを参考にし、自分の今後の活動への見通しをもつことができた。また、各クラスに1名ずつの学内資格認定者（4年生）が加わり、個々の学生に具体的なアドバイスをを行った。



1年生にとっては、基礎体験活動を振り返る初めての機会であり、体験発表会を実施するにあたり体験活動に必ず参加しておくことを条件とした。体験で得た学びや苦労などを熱く語る姿がどの班からも見られ、体験活動から得られる多様な学びや人と関わることの楽しさを早期に感じ取ることができたと感じた。

1月末の基礎体験活動（選択）の平均時間は138時間となり、昨年度の平均時間の87時間を大きく上回った。入学時は、基礎体験活動に不安を抱いていた学生も少なくなかったが、この半年間の経験や本セミナーでの学びの共有により、その後の活動への意欲化を図ることができた。

3. 充実期セミナー（2年生対象）

日 時	平成22年 9 月29日 13：00～15：00 35番教室 他
ねらい	・基礎体験領域でねらう資質・能力の視点から、これまで取り組んできた活動のデータを分析し、他者と比較しながら各自の成果と課題を明らかにする。 ・体験時間別にグルーピングを行い、体験学修への意欲の違いや考え方について明らかにする。

2年生の基礎体験活動（選択）の平均時間（9月中旬）は206時間で、昨年度の平均時間の218時間をやや下回っていた。入学時より積極的に体験活動への取り組み学生も多く、すでに360時間に達している者も21名いたが、未だ100時間に満たない学生も36名いた。

充実期セミナーでは、活動内容の自己分析や学生代表による体験発表等を主な活動としてねらいの達成に迫ってきた。昨年度は、体験活動へのふたこぶ化傾向が起きていたために、選択体験時間数によるグルーピングを行い、それぞれの課題に応じた深まりのある話し合いを行い充実した活動ができた。今年度は、体験活動の2極化傾向が強い学生の実態を踏まえ、昨年度と同様に体験時間数による等質のグループ化を行い、ねらいの達成に迫ることとした。

体験時間数が少ないグループに対しては、体験が進まない理由を明確にした上で、体験活動の選び方、活動時間確保の仕方などの意見交換を行った。また、4年生の資格認定者がアドバイザーとして話し合いに参加し、具体的な手立てを示し活動意欲を高めた。体験時間が多いグループは、事業企画を行った。経験豊富な学生にとって企画作りは、今後積極的に取り組みたい活動の一つでもあり有意義な活動であった。他のグループもそれぞれの実態に合わせた課題を設定したが、体験値が同等であることから学びや課題などを共有し易く、意欲的な活動ができた。学生の実態に応じたセミナーの実施により学生に充実度も大きく、活動への意欲化が図れた。

2年生の1月末の基礎体験活動（選択）の平均時間は288時間となり、昨年度の平均時間の278時間を上回った。平均時間の増加の要因として挙げられるものは多様に考えられるが、学生の実態を的確にとらえ学生のニーズに応える情報や活動を提供する場として基礎体験セミナーは有効であると再認識した。

4. 基礎体験交流会（1・2年生対象）

日 時	平成23年 2月17日 15:00～17:15 大学ホール・教養講義室棟
ねらい	・基礎体験で取り組んだ今年度の活動実績の確認をするとともに、それらの振り返りを通して自己内省を促す。 ・他学年の学生との体験活動の情報交換を通して、体験で得られた互いの学びを共有すると共に、今後の体験活動への意欲化を図る。

全体会では、これまで取り組んできた基礎体験活動の体験時間を確認すると共に、自身の体験活動の傾向等の確認を行った。また、学内資格認定制度についての説明を聞き、資格取得への意欲を高めた。

後半は、10の分科会場に分かれ、1・2年生混合の小グループで情報交換会を行った。昨年度は、1グループの人数が多く話し合いが深まらないという反省があったため、今年度は1グループ6名（各学年3名ずつ）とした。また、話し合いが学生主体で進められるように事前に司会者を選出し、進行にあたっての事前指導を行った。

情報交換会では、体験を通して抱いたさまざまな課題に対して学年を超えて意見交換するなど、司会者を中心に積極的な話し合いが行われていた。体験活動に消極的な1年生に対し、体験から得られる価値を懸命に伝えたり、部活動との両立で時間確保に悩んでいる1年生に、時間調整のしやすい活動を紹介したりするなど、上級生として積極的に支援しようとする2年生の姿が多く見受けられた。本セミナーは、異学年グループの貴重な情報交換の場であり、体験活動での学びを学年を超えて共有し合い、実践意欲の向上へとつなげる活動として有意義である。

5. 応用期セミナー（3年生対象）

日 時	平成22年12月3日 12:45～16:30 大学会館3F 大集会室
ねらい	・実習セメスターにおける体験活動の実際をふまえ、一人ひとりがこれまでの体験時間を確認し基礎体験活動に対する成果と課題を明らかにする。 ・実習セメスター及び教育実習での活動を振り返り、今後の大学生活を展望すると共に、進路決定に向けての自己啓発を促す。

昨年度は、教職志向はあるが迷っている学生や教職以外の職業への就職を決めている学生が多く、実習セメスターの教育体験活動への参加は5割程度であった。このような学生の教職志向状況を踏まえ、応用期セミナーでは志望別に6つのグループに分けて、同じ志向を持つ学生同士で協議をすることをメインにしたプログラムを組んだ。そのため、話し合いが焦点化され、実習セメスターのそれぞれの過ごし方の価値を共有し合ったり、今後の方向性を確認し合ったりできる場となった。

今年度は、実習セメスターの教育体験活動へ参加した学生が約8割あり、教職志向の高さと、教育体験活動への積極的な学生が多いことが把握できた。このような学生の実態を踏まえ、実習セメスターと学校教育実習Ⅳの往還をテーマとして、附属学校園での教育実習と公立の小中学校や幼稚園での教育体験の双方の活動を振り返り、相乗的に得られた学びや課題を3年生全員で確認することにした。セミナーでは、まず、5名の代表学生（パネラー）が体験発表を行った。その後、コメンテーターの教員やフロアの学生から多様な質問が出され、3者が一体になってパネルディスカッションを行った。フロアから挙げられた質問に対して、パネラー学生は自身の強い思いをもって答えていたが、それぞれの学生も自分に置き換えて真剣に考えていた。応用期セミナーは、教育実習Ⅳ・Ⅴを終えたこの時期に、実習セメスターの総括と今後の進路を結び付けて考える有効な活動である。

6. 発展期セミナー（4年生対象）

日 時	平成22年9月24日 13:00～14:00 教育学部 35番教室
ねらい	・1000時間体験学修における基礎体験領域での学びを総括し、一人一人がこれまでの体験時間を確認し、基礎体験活動に対する成果と影響度を明らかにする。

4年間の総括としてこれまでに行った様々な体験活動を振り返り、活動を通してどんな力を付けたのか、何を学んだのかなど自己の成長を再確認した。4年間取り組んだ基礎体験活動が、自分自身の生き方や進路決定に大きく影響していることに気付く契機にもなり、基礎体験活動の有意義感をさらに高めたようである。

4年生の教育体験活動への参加希望者の増加に伴い、今年度は教育体験活動の紹介が行われたが、来年の4月を見据え関心深く聞いていた。また、臨床カウンセリング領域からの総括的な説明とアンケートを行い、4年間の基礎セミナーの締めくくりを行った。

V 平成22年度の成果と課題

1. 1000時間体験学修の達成と改善

今年度も、卒業要件を満たす単位を取得した学生は全員が1,000時間の体験学修を達成し(平均:1223時間, 最低:1,001時間, 最大:2,898時間),「1000時間体験学修認定証」を授与した。4年間で締めくくる発展期セミナーのアンケートを集約してみると、学生にとって基礎体験活動へ8割強の学生が有意義感を見い出しており、自分自身を客観的に見つめ直す契機となっている。また、進路選択に大きな影響を与え、自己の在り方や生き方を示唆するものとなっていることが伺える。

今後も、1000時間体験学修における基礎体験領域での、それぞれの体験が有意義な学びを持つように、受け入れ先の事業所や学校との連携を深めながら進めていきたい。またその一方で基礎体験活動のガイダンスや、事前・事後指導や、各期のセミナー等の振り返りを充実させることで、基礎体験への意欲付けや体験学習の学びの共有化や累積を図り、教師力のさらなる向上につなげていきたい。

2. 基礎体験セミナーの改善

今年度は、基礎体験活動に対する学生の取り組み傾向の分析をもとに、基礎体験セミナーの見直しを行った。その結果、1年生対象にスタートアップセミナーを開講し、4年生の発展期セミナーの実施の時期を12月から9月へと変更した。また、これまで以上に学生の実態把握に努め、各学年の傾向に基づいて内容を工夫改善することとした。このような取り組みにより、すべてのセミナーにおいて学生主体の有意義な活動となり、今後の基礎体験活動への意欲化が図れた。特に、今年度入学生より、2年生修了時の認定時間が学校教育実習Ⅲの履修要件となったため早期より計画的に取り組むことが必須であったが、昨年度の1年生の平均体験時間を大幅に上回ることができた。認定時間の増加からも、セミナーの見直しによる一定の成果が確認できるが、すべての学生が段階的・計画的に基礎体験活動へ取り組めるよう、今後も工夫改善が重要である。

3. 専攻別体験との連携

専攻別体験は、基礎体験の中でも各専攻の特性を生かした体験活動であり、各専攻の専門性を深化させるための教育体験活動として位置づけられている。各講座で提供される専攻別体験、ビビットひろばでの専門性を生かした体験活動や環境寺子屋等によって、教科等の専門性を体験学修の中に連動させている。今年度は、教育支援センター主催で「学生フォーラム」を開催し、専攻別体験の取り組みと、臨床・カウンセリング体験、学校教育体験での学生の実践発表を行った。今後も各講座との連携を今以上に密にして、専門性を生かした教師力の育成を目指し、体験活動を充実させていく必要がある。

平成 22 年度 基礎体験領域における年間活動実施一覽表 附属教育支援センター

(資料)

区分	活動名	対象	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学内	基礎体験セミナー	1年	入門期 セミナーⅠ 基礎体験 合同説明会	入門期 セミナーⅡ				スタートアップ セミナー					1,2年生交流 セミナー 学生フォーラム	
		2年						充実期 セミナー					1,2年生交流 セミナー 学生フォーラム	
		3年									応用期 セミナー			
		4年						発展期 セミナー						
	だんだん塾講演会 (サポーターマイスター講演会)	共通				木村真介 先生講演						高尾雅裕 先生講演	山根伸志 先生講演	
学内	だんだん塾	共通	←	専任教員による学生支援活動 (①基礎体験学修の事前事後指導 ②日常的な相談活動 ③教採にむけての面接指導等										→
	島大ピピットひろば	共通			第1回 出前ピピット	第2回 出前ピピット			第3回	第4回	第5回			
	専攻別体験学修	専攻 学生	←	教育学部各講義の専門性を生かした、講座主催による年間を通した体験プログラムの実施										→
学外	NPO 法人ほか民間団体	共通	キャンプ、ジュニアリーダー養成研修、レクリエーション指導者養成、週末子ども体験事業 他											
	三瓶青少年交流の家		共同調査研究事業、研修事業及び施設ボランティア											
	島根県		適応指導教室、県立特殊教育諸学校の学習支援、定時制高校の学習支援、青少年教育施設での研修及び施設ボランティア 他											
	島根県松江市		サタデースクール、子どもの居場所づくり事業 他											
	出雲市		ウイアーエンススクール、子ども科学館事業 他											
	安来市		安来子ども探検隊 島田わんぱくクラブ											
	江津市		放課後学習チャーター、加茂の祭り 他											
	雲南市		幼稚園体験 他											
	東出雲町		キャンプ											
	興出雲町		夏のキャンプ											
	飯南町													
	斐川町													
	川本町													
	美郷町													
	舟土町													
	鳥取県米子市		キャンプ											
	境港市		陸上教室、科学教室、海のフェスティバル 他											
	伯耆町		合唱指導、スクールプロジェクト 他											
	南都町		キャンプ											
他	日吉津村		通学合宿											
	大山町		通学合宿											
	鳥根県浜田市		心に響きをもつ子どものキャンプ											